

『雑草派・ブレインセンター33年の視点』

行動する出版社。物語は、1977年『マイ奈良』の創刊から始まった。
環境、人権、アートなどの書籍を出版。発行点数500点。

(稲田紀男の仕事を中心に)

CSR・IR

Corporate Social Responsibility
2003年～
Investor Relations
1986年～

・「上場企業時価総額日本トップ300社の25%制作実績」
(総企画制作本数2900本)



出版

Publication
1977年～

◎マガジン・「マイ奈良<発行430号>」地域の相互扶助を促すタウン誌。

・「ペンギンクエスト」宮迫千鶴、五木寛之、荒木経惟、荒木陽子、野本三吉、長倉洋海。
かつて、幸徳秋水が手がけた「平民新聞」の発想からスタートし、「軽・薄・短・小」に真っ向から立ち向かう雑誌。

・「元気マガジン」10代と元10代を結ぶメッセージマガジン。

◎書籍

・「なにわ塾叢書<83巻>」昭和の賢人の遺言書。村野藤吾、天牛新一郎、秋野不矩、藤沢桓夫らが語る。

出版点数
500点

・「新なにわ塾叢書<3巻>」大阪が歩んできた道の<光と影><栄光と挫折>の両面から振り返る。

・「サラム草書<27巻>」人権の教科書。サラムとは「ひと・にんげん」をあらわします。

・「後藤正治ノンフィクション集<10巻>」

・東松照明、新宮晋、若一光司、太田順一、妹尾豊孝、百々俊二、畑祥雄、泉秋月、黒川博行、今井祝雄、浅野潜、後藤正治……の単行本多数。

「ブガジャ」の時代

大阪が一番面白かった時代の息吹を編纂。

岸和田だんじり讀本

日本が誇る歴史と文化を融合させた祭本。

韓国朝鮮人名仮名表記字典

日本初、隣国との友好の意を込めた人名字典。

映画

Movie
1982年～



・「日本映画講座(京都)」大島渚、マキノ雅裕、今村昌平、浦山桐郎、加藤泰ら招待監督44名。

・「シネ・ヌーヴォ、シネ・ヌーヴォ X」上映映画3900本。市民が出資し劇団・維新派が建築したアート映画館。

・「シネ・ピピア」日本初の公設民営映画館。

・「コミュニティシネマ大阪」大阪・アジア映画祭主催。都市、過疎村を問わずどこでも映画の文化の提供を。

アート

Art
1991年～

・「ブレインセンターギャラリー」写真と現代アートのコラボ。元永定正、山沢栄子、岩宮武二、新宮晋、荒木経惟。

・「インターメディアウム研究所」デジタル時代のバウハウス。
畑祥雄、伊藤俊治、南條史生、ヤノベケンジ、奥村昭夫、椿昇、林勝彦、港千尋。

・「IMI大学院スクール」もうひとつのアートスクール。デザイン、WEB、建築、都市計画、出版、映像、サウンド、現代美術の学問体系を横断する。21世紀の表現大学院。

・「宝塚メディア図書館(旧彩都メディア図書館)、写真表現大学」

写真・映像・美術・デザイン・音楽・サイエンスの専門図書館。

文化イベント

Cultural Events
1978年～

・「花博写真美術館」国際花と緑の博覧会。映像データベース実験パビリオン。

・「全国サクラ展」東松照明「さくら・桜・サクラ」出版記念、全国キャラバン。

・「アートフロント50」パルコ全館で次世代アーティスト50名の美術展。

・「公開文化講座、都市科学講座、公開教養講座、公開対話セミナー」

岡本太郎、武満徹、唐牛健太郎など500名の講師陣にて全500回を開催。

・「ジュリア文学学校」今江祥智、残間里江子、小山明子、椎名誠らを迎え開校。

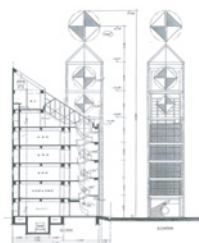
・「共通三次わいわいラジオ」中嶋らも。元気マガジン創刊記念イベント。10代の若者400人が結集。

・「日朝フリーウェイ」日本の中の朝鮮文化を訪ねて150人が50kmを歩く。

・「但馬学習農園」自然の中で体験する農業と学習。

・「Concert」

吉原すみれ、江藤俊哉、沢井一恵、高橋怒治、加藤登紀子、浅川マキ「白竜の音楽」等のConcert。



建築

Building
1992年～

・「新宮晋総合設計『ブレインセンター・風の万華鏡』ビル」

アートと建築が一体化した世界に通用する本社ビル。

